

## 日本のロジスティクス

中央経済社 256頁 2002年 定価2,800円+税

本書は、効率の良いロジスティクス活動を実践する手法について、主として経営学の視点から事例とそれらを束ねて体系化した理論を中心として網羅的に述べている。多方面にわたる企業事例に基づいて、ロジスティクス活動においてこれまで認識の及ばなかった分野を見直し、よりすぐれたロジスティクスを行うにはどうすればよいか、今後の指標を定めることが本書の目的である。企業でロジスティクスにかかわりのある人が読むビジネス書として、あるいは大学で教材として使用することも想定されており、理論と実際の体系を整理して述べている。各章の密度が高く、相当な分量の内容が盛り込まれているため、読み物として読むよりも、むしろハンドブックとして必要な箇所を調べる、といった利用がよいのかもしれない。

以下に紹介するように、本書はロジスティクスを軸とした企業経営のさまざまな効率化の手法と技術、背景をなす行政のしくみやインフラ整備が詳細に述べてある。これらの詳細な記述は、これから研究テーマを選択する学生にとって、大いに助けになるのではないだろうか。

本書では、ロジスティクスにおける機能を、物流を中心として、包装、保管、荷役、流通加工、それらに関連する情報の統合化、の六つに分けることを提唱し、特に流通加工と情報の高度化・統合化によるロジスティクスの効率化に焦点を当てている。各章の最初に「本章の狙い」が、最後に「章のまとめ」があり、章ごとの目的と内容が簡潔にまとめられている。

1章から3章では、ロジスティクスシステムの特徴と機能、企業におけるロジスティクス活動の位置づけ

とその効率化について事例とともに述べられている。

4章では、企業連携・資源の共有化について説明している。ロジスティクスは、複数の企業にわたることも多く、企業連携による効率的なロジスティクスの実現の方策が提案されている。5章では、企業連携のうち情報の共有に焦点を当てて解説している。

6章では複数の企業を含む製造から卸売、小売にいたる一貫したシステムの構築には、低コストで正確な情報の共有化が可能なシステムの導入が欠かせないことを指摘している。

7章ではロジスティクス活動を支える行政の仕組みや課題を整理し、インフラとして公共流通拠点の整備の現状を紹介している。

8章および9章では、ロジスティクスシステムの今後の展開とこれを推進するためには、どこに力点を置いて企業経営を行えばよいか、という提案を行っている。

著者は、長年にわたって物流を扱う企業で物流とロジスティクスの発展に尽くしてきた研究者である。著者の長期間にわたる経験と研究に裏打ちされた本書の内容には、現場の視点から得られた知見が豊富に盛り込まれている。

なお、2001年6月に出版された「ロジスティクス工学」久保幹雄著（朝倉書店）は、同じ対象を工学的観点から、モデルの構築と理論的な手法の実用への適用を中心にまとめられている（2002年2月のオペレーションズ・リサーチに著書紹介がある）。こちらもあわせて読むことによって、ロジスティクスに関して幅広く知識を得ることができるであろう。（三浦英俊）